

■出題例のPOINT

前問で出した追加薬（構造での出題）の受容体に対する、内因性リガンドの相互作用を構造から読み解く問題です。構造から考え得る化学的性質を判断する能力を必要とします。

■領域における学修方法のアドバイス

有機化学は「**知識の積み重ね**」が重要です。特に近年は、基礎事項をしっかり理解した上で「臨床で使用されている医薬品が化学反応とどう関わっているのか」を問う問題が散見されます。基本事項をしっかり理解し、化学反応や医薬品化学について、与えられた構造から判断できるようにしましょう。

（解答3 参考正答率54%）

生物

■領域における特徴、出題傾向

図や構造、実験操作などから情報を読み取り、判断することで答えを導き出す「**考える力を必要とする問題**」「**応用力を必要とする問題**」の出題が多く見られます。

■第106回薬剤師国家試験出題例

第106回国試 問221

【参照：連問の前問（問220）の概要】

A病院の担当医は、以下の処方で高尿酸血症に対する薬物治療を開始することを検討した。

（処方）フェブキソスタット錠10mg 1回1錠（1日1錠）  
1日1回 朝食後 14日分

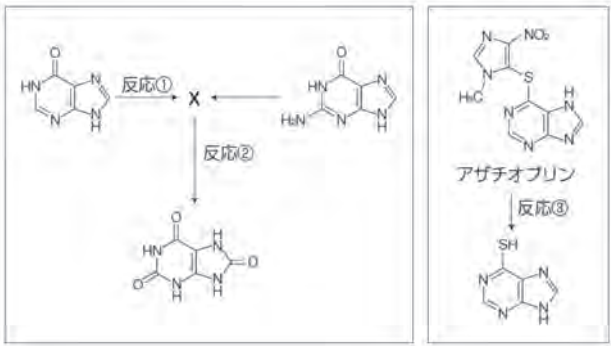
その際、A病院の担当医がお薬手帳を確認したところ、B総合病院消化器内科から潰瘍性大腸炎に対してプレドニゾロンとアザチオプリンが処方され、服用中であることが判明した。

検討中の処方に関し、A病院の担当医から薬剤部の薬剤師に相談があった。薬剤師の回答として適切なのはどれか。1つ選べ。

解答：フェブキソスタット錠をベンズプロマロン錠に変更してください。

高尿酸血症・痛風治療薬の処方を扱うことが多いこの薬剤師は、プリン塩基及び関連化合物の代謝経路について図のとおり整理した。この図に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 Xはヒポキサンチンである。
- 2 フェブキソスタットは反応①と反応②を阻害する。
- 3 Xは反応②で酸化されて尿酸になる。
- 4 反応②の生成物は、尿素に変換されて尿中に排泄される。
- 5 この薬剤師が前問の回答をしたのは、フェブキソスタットにより反応③が阻害され、アザチオプリンの血中濃度が上昇すると考えられたためである。



■出題例のPOINT

前問（問220）は、薬剤師が薬剤の相互作用をもとに処方提案する実務の問題です。生物で学修するヌクレオチド代謝の基礎的な内容を構造とともに整理し、臨床現場で頻用される薬剤との相互作用を理解しましょう。

■領域における学修方法のアドバイス

核酸の種類・構造・性質について、他科目に関連する知識を早期に修得することが大切です。その中でもヌクレオチド代謝については、出題頻度も高く、構造に関連する問題が多く出題されます。構造に関連する内容については、既出問題をベースに基礎知識の土台を固めることで学修効率が高まるため、**問題演習を繰り返し行い**、学修していきましょう。

（解答2、3 参考正答率49%）

衛生

■領域における特徴、出題傾向

衛生は、「**公衆衛生のトピックスや法律の改正点が出題**」されることが多いです。例えば、2025年に後期高齢者が増加する社会背景を踏まえて、第106回国試では「高齢者のウェルニッケ脳症に関する実践問題」が出題されたと考えられます。

■第106回薬剤師国家試験出題例

第106回国試 問231

72歳男性。1ヶ月前に妻と死別後独居となり、毎日ほとんど食事をとらず、アルコールを多量に摂取していた。ある朝、娘が自宅を訪れたところ、意識消失状態で床に倒れていたため、救急車を呼び救急病院に搬送された。診察の結果、ウェルニッケ脳症を疑い、治療を開始した。

入院時所見：身長167cm、体重50kg、尿量30mL/h

血清クレアチニン値0.65mg/dL、Na150 mEq/L、K4.0mEq/L

この患者の病態と栄養状態に関する記述のうち、誤っているのはどれか。1つ選べ。

- 1 十分な食事をしていないため、エネルギー代謝の主体が、脂肪やタンパク質から糖中心に変わっていると考えられる。
- 2 この患者では、グルコースからのATP産生が低下していると考えられる。
- 3 この患者におけるウェルニッケ脳症の発症には、アルコールの多量摂取が関与している。
- 4 この患者に一般食（2000kcal/日）を与えると、ウェルニッケ脳症が悪化すると考えられる。
- 5 この患者に一般食（2000kcal/日）を与えると、リフィーディングシンドロームを引き起こすことがある。

■出題例のPOINT

本設問は「栄養と健康」の分野からの出題であり、リード文から「生物」でも学ぶビタミンB<sub>1</sub>欠乏症やエネルギー代謝、リフィーディング症候群の知識とつなげることが求められています。

■領域における学修方法のアドバイス

高齢者で問題となりやすい、フレイル、サルコペニア（加齢性筋肉減少症）、PEM（タンパク質・エネルギー低栄養状態）などに対応することが、薬剤師には求められています。栄養学を理解するためには、**糖質・脂質・蛋白質の代謝（生物）や構造式（化学）の知識**も欠かせません。早いうちから科目の壁を越えて勉強しておくと、必ず成績は伸びますよ！

（解答1 参考正答率68%）

臨床で役立つ知識が身につく！

基礎からの漢方薬

第4版

【医療用漢方製剤構成生薬解説】

「漢方医学」、「漢方の基礎理論」、「調剤、服薬指導」、「生薬・方剤」などを図表やカラー写真を多数使い、わかりやすく解説しています。

著 金成俊 / B5判 / 340頁 / 定価 5,000円 + 税 / 5月初旬発売

書籍のご注文は、お近くの書店または薬事日報社オンラインショップ（<https://yakuji-shop.jp/>）まで。

